



▲雪が降っていましたが15名がスノーシューを楽しみました

私が住んでいる乗鞍のお隣である奈川。知っているようで知らない事だらけの地域。そんな奈川の山をガイドの「だいいじ屋」関谷さんとスノーシューで歩けるという企画を知り、参加しました。

当日、初めて訪れた野麦峠スキー場。初めて乗ったりフトの距離の長さや寒さにびっくりしながらスキー場の一番上まで来ると、そこから木々が生い茂る森の中にスノーシューで入って行きました。山の斜面を登って行くと開けた場所があり、天気の良い日は乗鞍岳や

安曇公民館主催
冬の奈川をスノーシューで歩こう!
2/19



●安曇地区●
664世帯
男 625人
女 619人
合計 1244人
R7.3.1現在



▲雪のテーブルでティータイム

遠くには富士山も見える時がある。と教えてもらいました。

この日は快晴とはいかず、山々を一望する事は叶いませんでした。

が、ビシッと冷えて締まった雪の上をスノーシューで踏み歩くのは心地よく、木々には雪ではなくキラキラでトゲトゲした針状の結晶が全体に付着していて、その姿が不思議でとても美しかったです。そして関谷さんから自然についての話や、ガイドとして伝えていきたい熱い思いなども聞けたのが面白かったです。

スノーシューの後はどうじ蕎麦をいただき、温泉にも入り、心身ともに温まり奈川を堪能した一日でした。

また違う季節の奈川も知りたいと思いました。

ありがとうございました。

中原 暦

温故知新

昔の館報に掲載された記事や安曇村誌の記述から、興味深いものの2件をご紹介します。

安曇村の稲作

安曇村の稲作は、寛政10年(1798)に安田沢に30坪ほどの田を作ったのが最初である。2年後には稲核全体(下平から越塚にかけて)で、3町9反1畝25歩(11,755坪)に拡大している。(以上、安曇村誌 第2巻 歴史(上)より)

大野田と島々にも、近世のころからわずかの田地が川沿いにあったが、明治末ころにはなくなった。また稲核は、3ダムの建設によってほとんどが水没してしまっ

た。

大野川では、明治4年に宮ノ平(現在の宮の原付近)で開拓が始まった。この頃の田数は25枚で1,197坪となっている。また、沢渡にも田地ができている。

昭和18年に村の奨励によって、千石平で開田が行われた。(略)そして、20年代、日本一高い地で稲作が行われたという記録を残している。これは、標高1,350~1,370mの檜ノ木地区である。(以上、安曇村誌 第3巻 歴史(下)より)

ちなみに現在耕作している最高地点の水田は、開田高原の1,260mです。

郷土の発明家

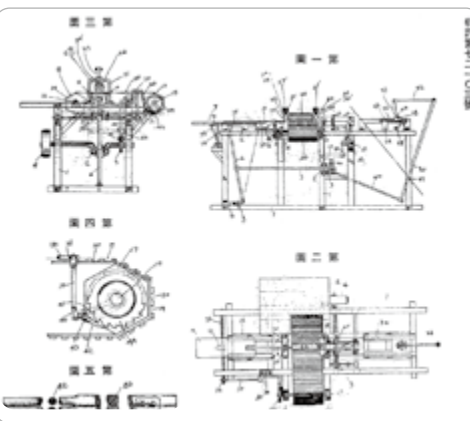
(大野市平さん・大野田安曇公民館報第24号
(昭和30年1月20日発行)より

市平さんが発明したのは、割箸製造機です。

一日二万本の割り箸を製造することができるようですが、残念なことに戦争のため金属として軍に供出しなければならなかったとのこと。

昭和2年5月31日付けの特許証が現存しています。

昭和2年公告第66



図面の出典：独立行政法人工業所有権情報・研修館 特許情報プラットフォーム (J-Plat Pat)

9号には発明の詳細な説明が添えられております。なお、参考までに添付されていた図面の一部を掲載します。

(館長 大野 修)

あづみくやうついで



しおやま りゅう 島々 塩湯 涼

2024年4月から島々に移住してきた塩湯と申します。出身は京都で、大学と社会人時代は九州におりましたが、山に惹かれて3年前に松本に移住しました。

山好きが集まれる場所を作りたいと考えていた時にアルパインカフェ満寿屋の山口さん

に誘われ、かつて上高地への登山口として賑わった島々をもう一度見たいと思い移住を決断しました。

現在は山で働く人向けのシェアハウス「小屋番の小屋」と登山者向けの宿「島々山荘」を運営しており、空き家を活用して新たな移住者を呼び込み、地域活性化につながればと思います。

また、岩魚留小屋の営業再開に向けても活動しております。

山の魅力が溢れた安曇地区を盛り上げていきたいので、これからよろしく願います。

安曇小中学校

元気な
安曇っ子

じょうほう

卒業を迎えて

卒業式

中学校卒業を迎え、まず「やっと終わった」という達成感が沸き上がってきます。安曇校に在籍した九年間の学校生活で、勉強だけでなく、課外活動や学校行事を通じて多くの経験をしました。特に今年度の「安曇祭」では、準備も含め、自分の人生にとって大切なことを学びました。

このように、安曇校だから成長できたことがたくさんありました。卒業を迎え「安曇校を離れるのか」という少しの寂しさもありますが、新しい一歩を踏み出すことが楽し

9年間の成長



▲小1



▲中3

スキー教室をふりかえって

一月十七日の金曜日に、第一回スキー教室がありました。午前中は基礎練習をしました。基礎練習では、外足に乗る練習をしました。「外足に乗る」とは、ターンの外側のスキーに、体重の大部分をかけてターンする技術のことです。スキーでは外足に乗ることがとても重要なので、たくさん滑り、練習をしました。

そして午後は、もしかコー



スで二グループ四人ずつに分かれて、交互にスタートし、お互いが交互に斜面を交差するような滑り方をやりました。初めてやりましたが、交差できた時は嬉しかったです。第二回スキー教室では、バジテストがありました。今年僕は二級を受け、大回り、小回り、シテムターンの三種目をやりました。午前中は、三種目の練習をしました。中でも僕は、小回りが苦手で、どんなスピードで、どんなターンの大きさが明確には分からず、苦戦しました。そして、午後になり、バジテストが始まり、緊張していたけれど、自



分が思っていた以上に綺麗に滑れてバジテストの二級をとることができました。

僕は、このスキー教室でたくさんのことを学んだので、それを大会などで生かしていきたいと思いました。また、このようなスキー教室は中学卒業までにあと三回しかないので大切にしていきたいです。

中学一年 齋藤有